

インフレがカギを握る米国景気

ポイント① 米CPIは鈍化も依然高水準

米国ではFRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締めが継続されていますが、インフレの鎮静化にはまだ時間を要しそうです。14日発表の1月の米CPIは前年同月比6.4%の上昇と昨年12月から鈍化したものの、小幅なものにとどまっています。また、15日発表の1月の米小売売上高も堅調に推移しており、高水準のインフレ下でも強い需要がうかがえます。

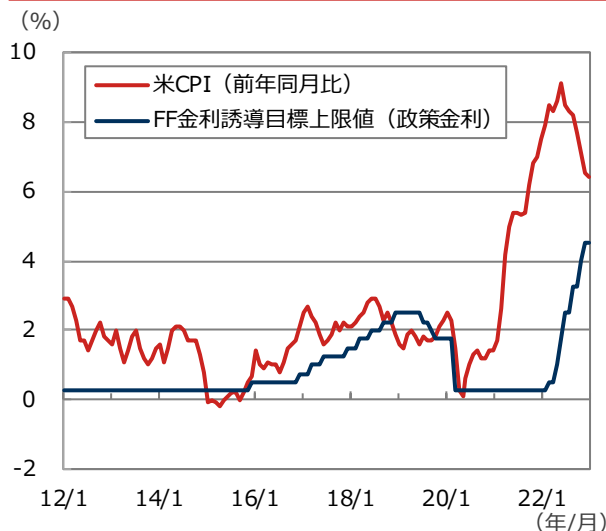
ポイント② 企業は高水準のインフレに苦戦

利上げとコスト上昇などを背景に企業の経営環境にも陰りが出始めています。米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は5か月連続で低下しており、企業活動の拡大と縮小の境目を示す50を下回っています。サプライチェーンの混乱は解消されつつあるものの、原材料の高騰などに苦戦していると考えられ、コスト削減の観点から大手企業やIT系の企業では続々と従業員の大量解雇が実施されています。一方、最近の非製造業景況感指数は、寒波の影響で一時的に50を割った昨年12月を除けば、概ね55程度と良好な水準を維持しています。堅調なサービス業が人手不足をもたらし、賃金に上昇圧力をかけ、サービス価格の高止まりが続く可能性には警戒が必要でしょう。

ポイント③ 景気が利上げに耐えるかに注目

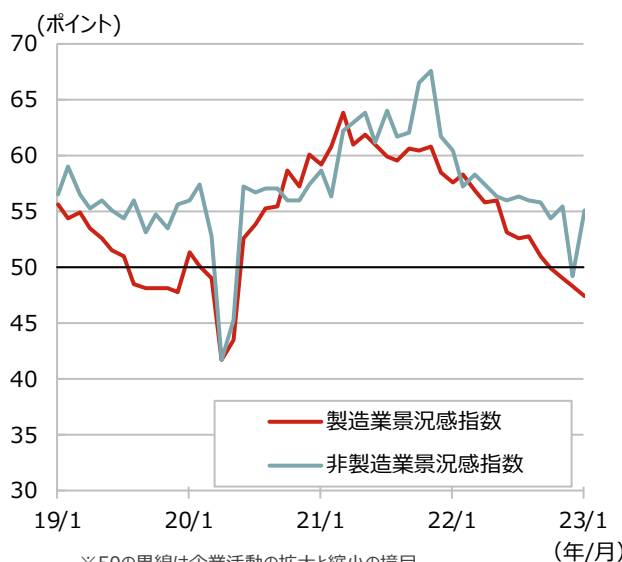
米小売売上高などに見られる堅調な指標から、利上げが継続している状況下でも、現在の米国景気は底堅いことがわかります。一方、利上げの終着点は未だ不透明なため、インフレの落ち着きどころを見極めることが、今後の金融政策を占う上で重要な要因になると考えられ、更なる金融引き締めの強化が景気の強さにどの程度影響を及ぼすのかに注目です。

米CPI（消費者物価指数）と政策金利の推移



期間：2012年1月～2023年1月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数の推移



※50の黒線は企業活動の拡大と縮小の境目
期間：2019年1月～2023年1月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

- 2月22日 FOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨公表
- 2月24日 米PCE（個人消費支出）デフレータ（1月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。